

長浜企業 景況調査

報告書



実績 2024年 **10月~12月**

見通し 2025年 1月~3月

今期のトピックス

- ①原油等、原材料価格上昇の影響について
- ②賃金引き上げとその要因について



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
 発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
 補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
 健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→
 Google Play ストアからダウンロード



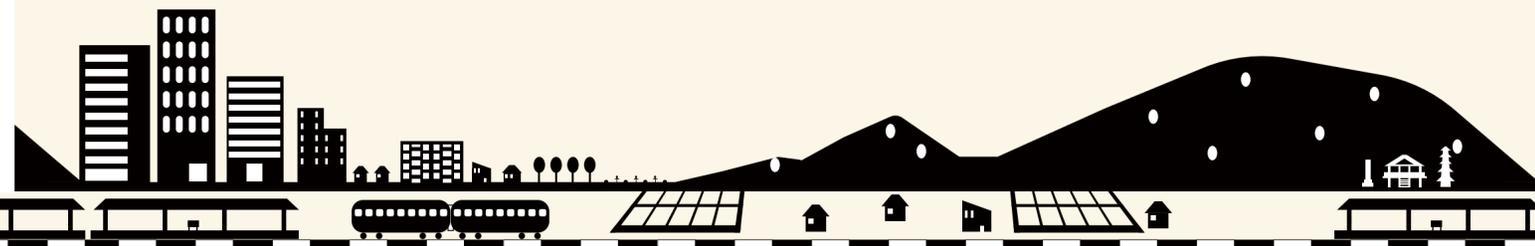
■Iphone・ipad をご利用の方→
 App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**
 NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

- 01 調査概要
- 02 今期のトピックス
- 03 全体の景況感（総括）
- 04 調査項目別 DI 値
- 04 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）
- 05 業種ごとの動向
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)
- 07 設備投資の有無
- 08 調査項目別 DI の推移
- 10 その他業種別自由意見

調査概要

長浜企業景況調査について

- ①調査対象期間・調査時点
調査対象期間：令和6年10月～12月
調査時点：令和7年1月1日
- ②調査方法
長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式
・メール方式による調査
- ③調査対象企業数
220社（内訳は右表通り）
- ④報告者
中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	16	12.1%	66.7%
小売業	40	18.2%	24	18.2%	60.0%
サービス業	70	31.8%	40	30.3%	57.1%
建設業	32	14.5%	21	15.9%	65.6%
製造業	54	24.5%	31	23.5%	57.4%
合計	220	100.0%	132	100.0%	60.0%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ①調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ②調査項目のうち、「業況（自社）」「売上高」「採算（経常利益）」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向（同業他社）」「長・短期資金借入難易度」「受注動向（建設業）」「在庫量（製造業）」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

- ①DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気が良い」と判断されます。
- ②このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のため1～3月期は総じて低調な傾向となります。

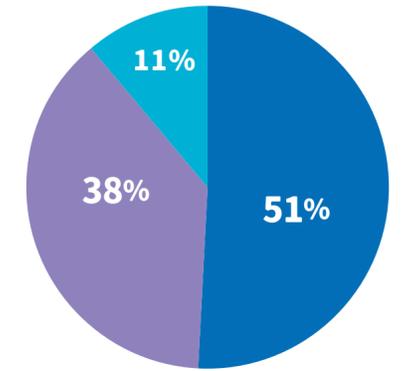
設備投資の見方について

- ①好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

今期のトピックス

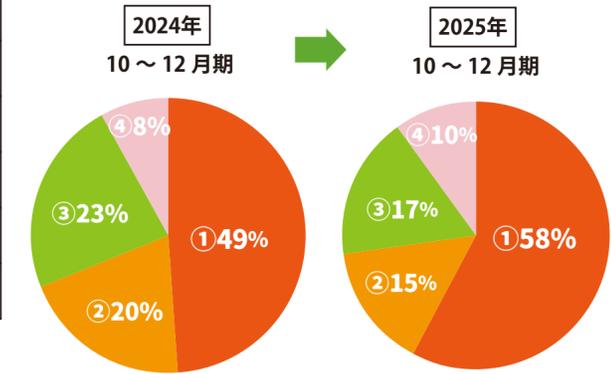
1. 原油等、原材料価格上昇の影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
悪影響がある	9	12	13	14	17	65
少し悪影響がある	7	11	16	5	9	48
悪影響はない	0	0	9	2	3	14
合計	16	23	38	21	29	127

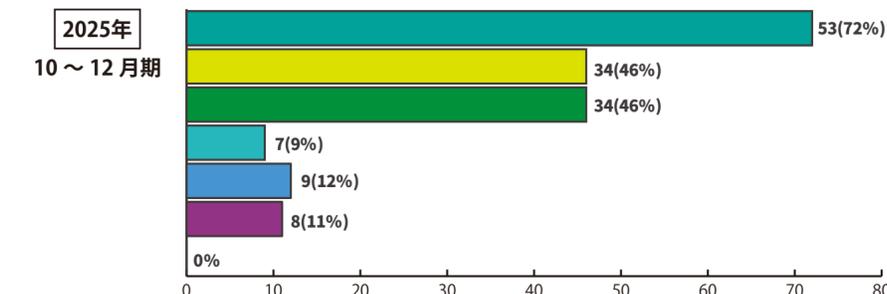
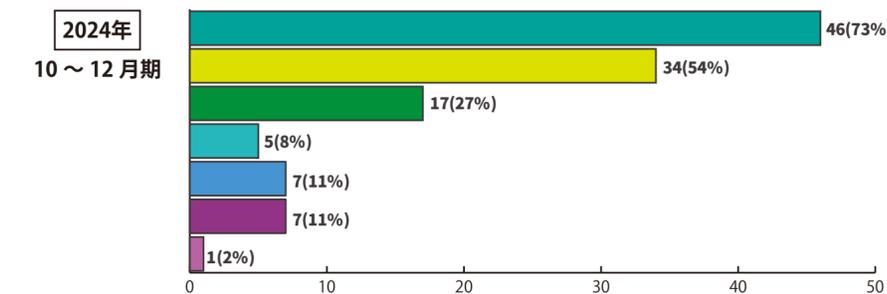


(2) 賃金引き上げの実績・予定の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①ある	9	8	23	11	23	74
②ない	3	8	3	2	3	19
③分からない	4	3	8	6	1	22
④従業員を雇用していない	0	4	5	2	2	13
合計	16	23	39	21	29	128



(2-1) 賃金引き上げの要因について（複数回答あり、有効回答社数 74 社、回答数 145）



※各項目の()内の割合は、回答者数に占める割合（複数回答のため合計は100%にならない）

全体の景況感（総括）

業況DIはマイナス幅がやや拡大

全体の業況DIは、前期（2024年7-9月期）の▲4.5から今期は▲5.3とびマイナス幅がやや拡大しました。売上高DIはもちあい（0.0）で前期比4.5ポイント上昇、採算（経常利益）DIは▲8.3で同7.0ポイント上昇しました。

販売価格DIは41.2で前期比6.0ポイント上昇し、仕入れ価格DIは71.5で同0.6ポイント低下しました。その結果、販売価格DIから仕入れ価格DIを差し引いた価格転嫁度は▲30.3で同6.6ポイントマイナス幅が縮小し、採算DIの改善に影響したと思われます。

従業員DIは▲24.4で前期に比べ不足感がやや強まりました。

来期（2025年1-3月期）の業況DIはもちあい（0.0）で今期より5.3ポイント上昇する見通しとなっています。

業況DIは建設業・サービス業・卸売業で上昇、小売業・製造業で低下

業種別の業況DIは、建設業、サービス業で上昇しそれぞれ5期ぶり、2期ぶりにプラス圏となりました。卸売業も上昇しましたがマイナス圏でした。小売業、製造業は低下し、それぞれ4期ぶり、3期ぶりにマイナス圏となりました。採算DIは2期連続ですべての業種がマイナスとなりました。従業員DIは、建設業、サービス業、卸売業で不足感が強まりました。

卸売業は、売上高DI（▲12.5）が前期比34.9ポイント、採算DI（▲18.8）は同39.1ポイントともに上昇し、業況DI（▲25.0）は同17.1ポイント上昇しました。小売業は、売上高DI（▲4.2）が同25.9ポイント低下し、業況DI（▲8.3）は同30.0ポイント低下しました。販売価格DI、仕入れ価格DIともに低下し、採算DI（▲4.2）はほぼ横ばいでした。サービス業は、売上高DI（5.0）が同7.6ポイント、業況DI（2.5）は同2.5ポイント、ともに上昇し且つプラス圏となりました。建設業は、売上高DI（4.8）、採算DI（▲4.8）がともに上昇し、業況DI（9.5）は同23.8ポイント上昇し5期ぶりにプラス圏となりました。製造業は、売上高DI（0.0）、採算DI（▲9.7）がともに低下し、業況DI（▲12.9）は同12.9ポイント低下し3期ぶりにマイナス圏となりました。

来期の業況DIは、小売業、サービス業、製造業で上昇、卸売業、建設業で低下する見通しとなりました。

コスト削減中心から本格的な価格転嫁による収益確保へ

採算（経常利益）DIと価格転嫁度（販売価格DI-仕入れ価格DI）の2曲線が令和6年4-6月期以降連動するようになってきました。これは価格転嫁度がダイレクトに収益に影響していることを意味しています。

一方、足元の収益状況を表す採算の水準（黒字-赤字）DIはコロナ禍後最も高い20.5となりました。

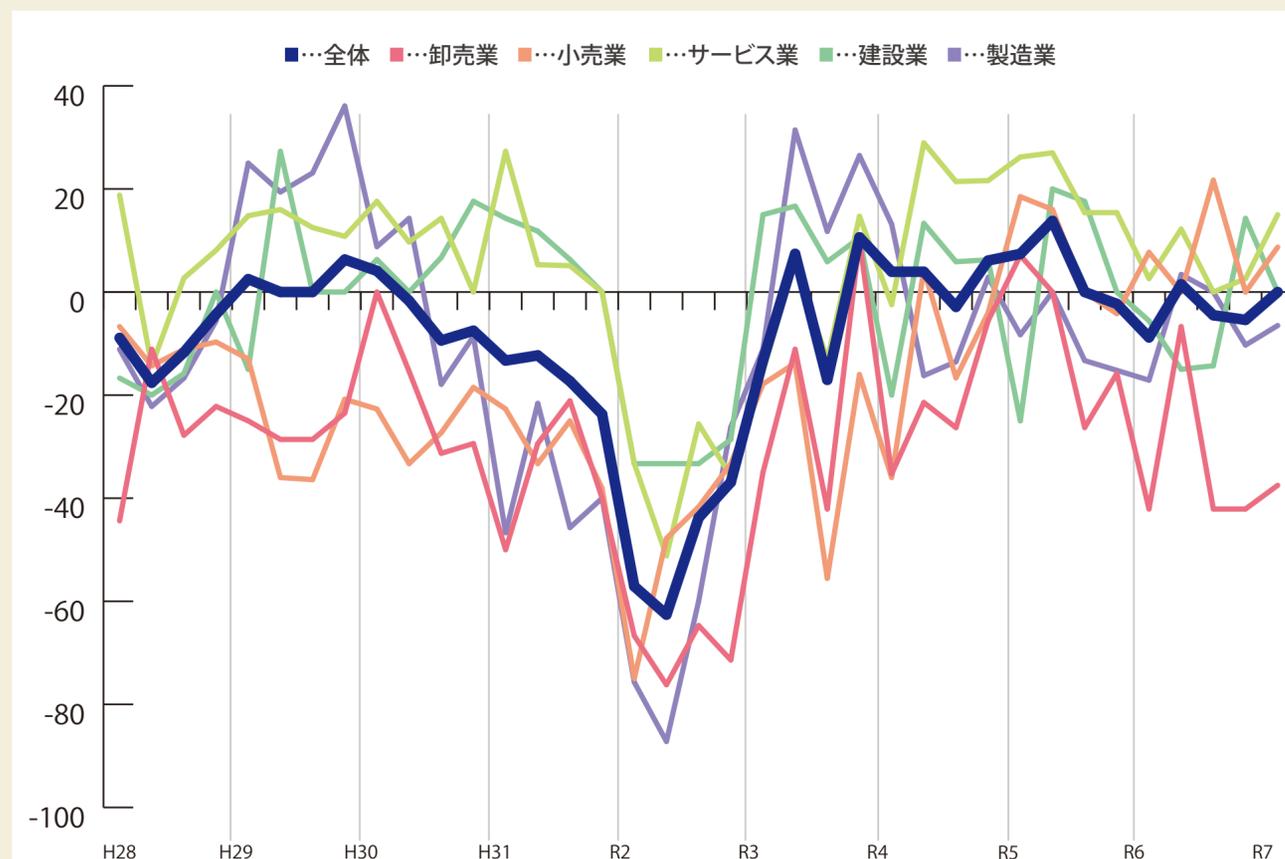
以上から、それまでのコスト削減中心の採算確保が限界にきており、賃上げ、金利上昇、円安による原材料価格上昇等の今後予測される厳しい収益環境を、価格転嫁に本腰を入れて取り組むことによって乗り切る段階に入っている状況が見て取れます。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R5.10-12	R6.1-3	R5.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
業況	▲ 2.3	▲ 8.8	1.5	▲ 4.5	▲ 5.3	0.0
売上高	9.2	▲ 7.3	2.3	▲ 4.5	0.0	1.5
採算(経常利益)	▲ 10.7	▲ 13.9	▲ 11.4	▲ 15.3	▲ 8.3	▲ 4.7
資金繰り	▲ 10.8	▲ 6.6	▲ 5.3	▲ 13.7	▲ 8.3	▲ 4.7
従業員	▲ 21.5	▲ 24.4	▲ 26.5	▲ 22.0	▲ 24.4	▲ 23.6
取引の問い合わせ	▲ 5.4	▲ 11.9	▲ 8.5	▲ 5.4	▲ 6.9	▲ 10.9
採算の水準	18.2	8.1	15.9	8.4	20.5	18.5
販売価格	38.5	41.8	39.5	35.2	41.2	45.0
仕入れ価格	73.4	75.4	71.3	72.1	71.5	70.5
業界動向	▲ 20.3	▲ 19.8	▲ 20.6	▲ 20.9	▲ 20.5	▲ 12.8
借入難易度(長期)	▲ 1.6	6.8	1.6	▲ 1.6	▲ 0.8	▲ 1.6
借入難易度(短期)	4.0	10.1	6.3	1.6	4.8	2.4
受注動向(建設業)	▲ 12.5	▲ 5.9	▲ 15.8	0.0	0.0	▲ 5.3
在庫量(製造業)	0.0	7.4	▲ 8.3	11.1	▲ 3.7	▲ 11.1

業種別業況DIの推移（長期トレンド）



※R7.1-3のDIは見通し

業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

前期の業況DI値から
+1以上

前期の業況DI値から
+1未満▲1超

前期の業況DI値から
▲1以下

※全国の業況DI...
「中小企業業況調査」
(中小企業庁)結果より

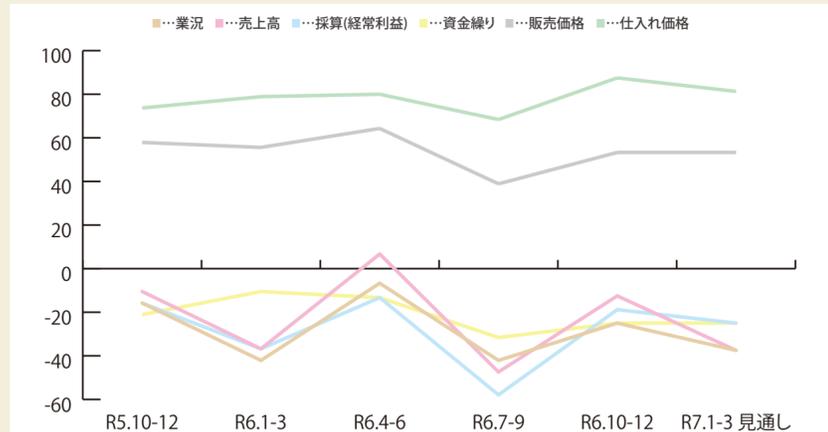
卸売業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▲14.3→▲13.7

長浜 ▲42.1→▲25.0

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
業況	▲15.8	▲42.1	▲6.7	▲42.1	▲25.0	▲37.5
売上高	▲10.5	▲36.8	6.7	▲47.4	▲12.5	▲37.5
採算(経常利益)	▲15.8	▲36.8	▲13.3	▲57.9	▲18.8	▲25.0
資金繰り	▲21.1	▲10.5	▲13.3	▲31.6	▲25.0	▲25.0
販売価格	57.9	55.6	64.3	38.9	53.3	53.3
仕入れ価格	73.7	78.9	80.0	68.4	87.5	81.3



事業者の声

好転

- 顧客の設備投資による好影響

悪化

- 物価上昇による賃上げ
- 仕事量の減少

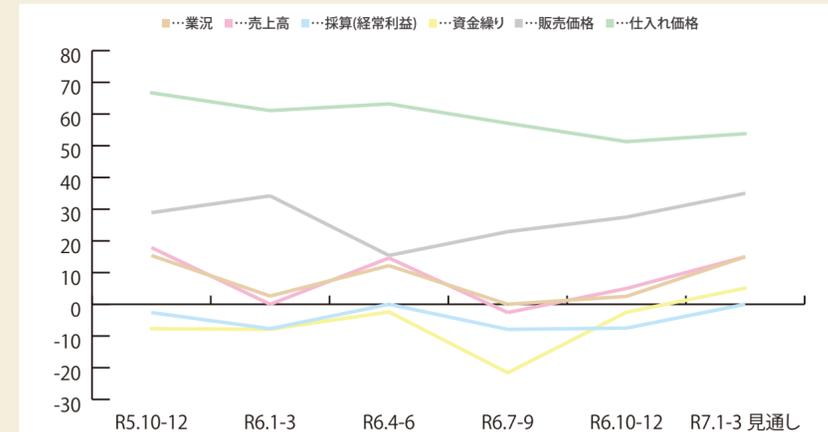
サービス業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▲10.5→▲12.2

長浜 0.0→2.5

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
業況	15.4	2.6	12.2	0.0	2.5	15.0
売上高	17.9	0.0	14.6	▲2.6	5.0	15.0
採算(経常利益)	▲2.6	▲7.7	0.0	▲7.9	▲7.5	0.0
資金繰り	▲7.7	▲7.9	▲2.4	▲21.6	▲2.5	5.1
販売価格	28.9	34.2	15.4	22.9	27.5	35.0
仕入れ価格	66.7	61.1	63.2	57.1	51.3	53.8



事業者の声

好転

- 社会活動が活発化し、問合せは少しずつ増加
- 値上げにより

悪化

- 物価高などの影響により、契約に結び付かない
- 原油高騰により、紙・インク資材等が上がった。

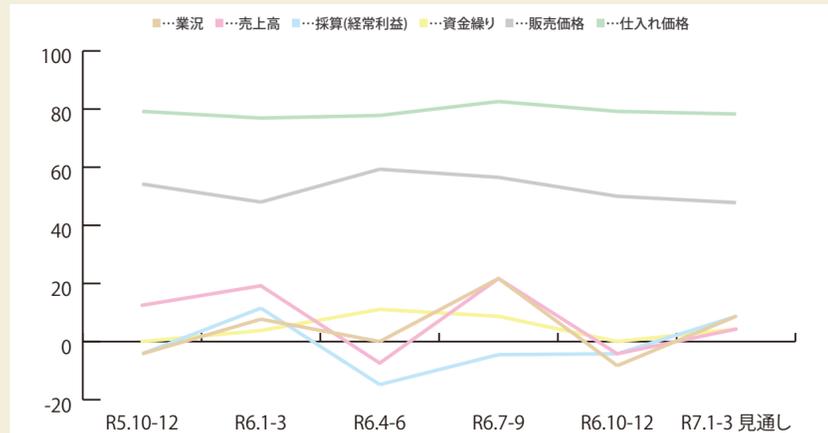
小売業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▲26.9→▲29.2

長浜 21.7→▲8.3

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
業況	▲4.2	7.7	0.0	21.7	▲8.3	8.7
売上高	12.5	19.2	▲7.4	21.7	▲4.2	4.3
採算(経常利益)	▲4.2	11.5	▲14.8	▲4.5	▲4.2	8.7
資金繰り	0.0	3.8	11.1	8.7	0.0	4.3
販売価格	54.2	48.0	59.3	56.5	50.0	47.8
仕入れ価格	79.2	76.9	77.8	82.6	79.2	78.3



事業者の声

好転

- ふるさと納税の受注は好調でした
- ネット販売が活況、業務用・卸なども回復傾向
- ネットからの問い合わせ改善

悪化

- 物価上昇による買い控え
- 仕入価格上昇、運賃値上による影響大
- 原材料価格や光熱費の上昇による利益率の低下

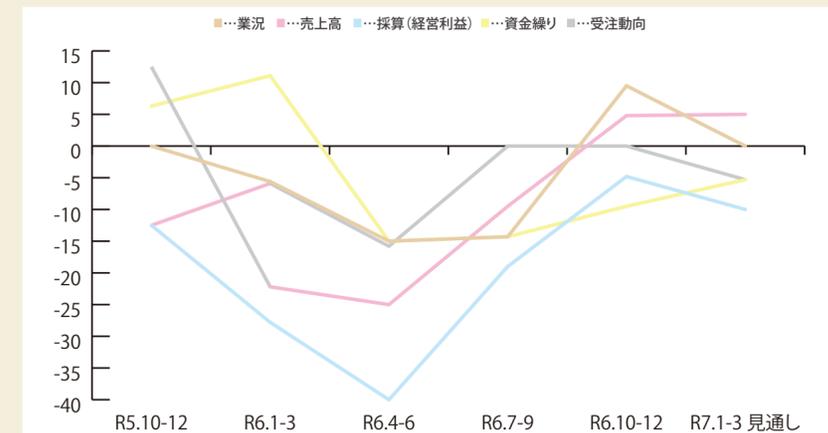
建設業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 ▲11.7→▲9.7

長浜 ▲14.3→9.5

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
業況	0.0	▲5.6	▲15.0	▲14.3	9.5	0.0
売上高	12.5	▲22.2	▲25.0	▲9.5	4.8	5.0
採算(経常利益)	▲12.5	▲27.8	▲40.0	▲19.0	▲4.8	▲10.0
資金繰り	6.3	11.1	▲15.0	▲14.3	▲9.5	▲5.3
受注動向	▲12.5	▲5.9	▲15.8	0.0	0.0	▲5.3



事業者の声

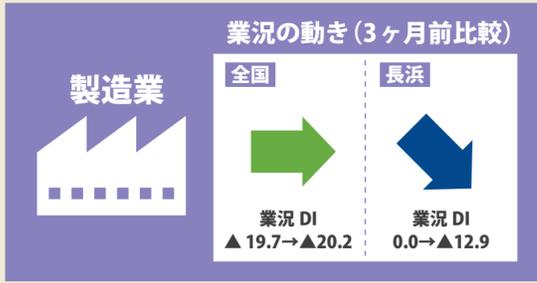
好転

- 物価高の状況ではあるが、反対に販売価格に転嫁する理解を得られる機会にもなった
- 運輸や交通、自動車関係からの設備投資の依頼が増えた

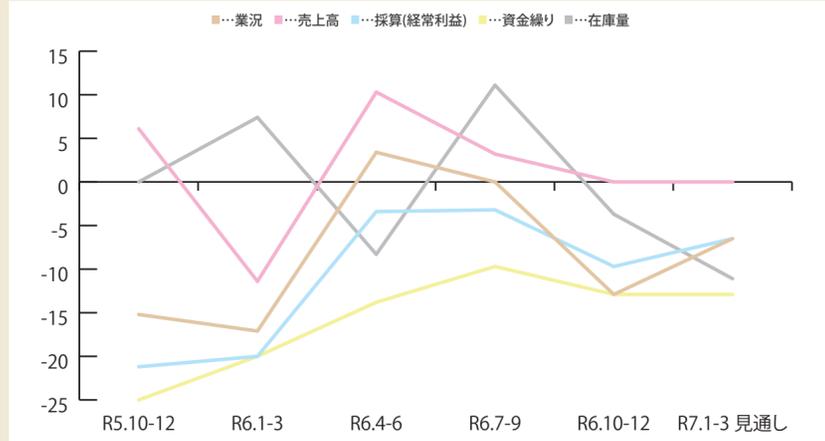
悪化

- 人件費の増加が利益を圧迫する
- 他の企業との採用競争が激しくなっており、採用コスト上昇

業種ごとの動向（製造業）



	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
業況	▲15.2	▲17.1	3.4	0.0	▲12.9	▲6.5
売上高	6.1	▲11.4	10.3	3.2	0.0	0.0
採算(経常利益)	▲21.2	▲20.0	▲3.4	▲3.2	▲9.7	▲6.5
資金繰り	▲25.0	▲20.0	▲13.8	▲9.7	▲12.9	▲12.9
在庫量	0.0	7.4	▲8.3	11.1	▲3.7	▲11.1



事業者の声

好転

- 受注が増加し、新製品なども旺盛になってきた
- 期初より労務費の価格転嫁交渉を進めて、増益に繋がった

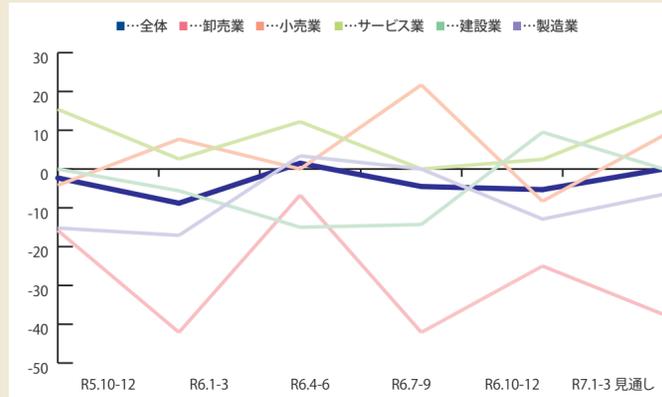
悪化

- 賃金上昇の率が大きく、業績に大きな影響
- 自動車半導体事業低迷
- 原料費、人件費、光熱費等諸々のコストが上昇
- 日本人の賃金が諸外国に比べ見劣り、外国人人材の雇用が難しくなっていく。

調査項目別 DI の推移①

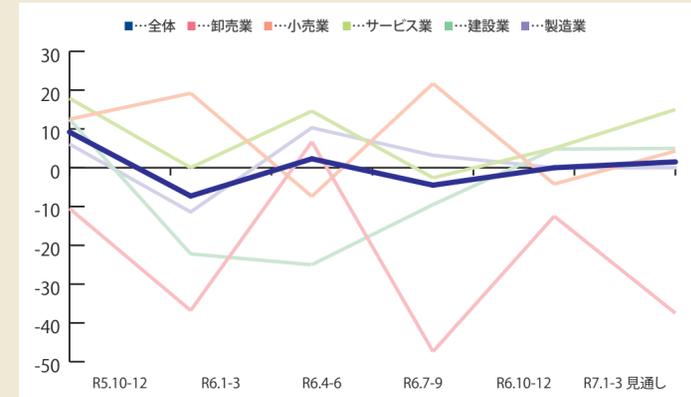
業況（好転-悪化）

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲2.3	▲8.8	1.5	▲4.5	▲5.3	0.0
卸売業	▲15.8	▲42.1	▲6.7	▲42.1	▲25.0	▲37.5
小売業	▲4.2	7.7	0.0	21.7	▲8.3	8.7
サービス業	15.4	2.6	12.2	0.0	2.5	15.0
建設業	0.0	▲5.6	▲15.0	▲14.3	9.5	0.0
製造業	▲15.2	▲17.1	3.4	0.0	▲12.9	▲6.5



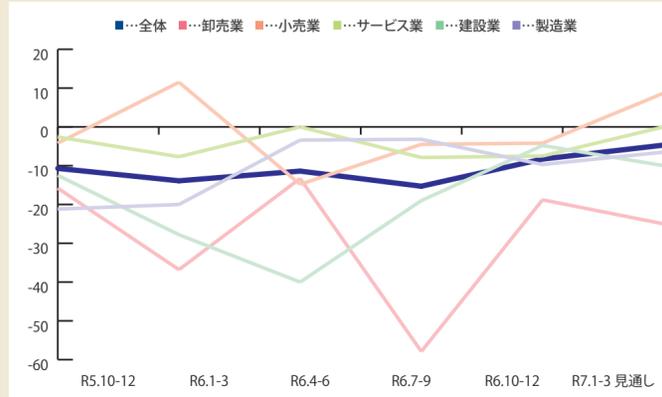
売上高（増加-減少）

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	9.2	▲7.3	2.3	▲4.5	0.0	1.5
卸売業	▲10.5	▲36.8	6.7	▲47.4	▲12.5	▲37.5
小売業	12.5	19.2	▲7.4	21.7	▲4.2	4.3
サービス業	17.9	0.0	14.6	▲2.6	5.0	15.0
建設業	12.5	▲22.2	▲25.0	▲9.5	4.8	5.0
製造業	6.1	▲11.4	10.3	3.2	0.0	0.0



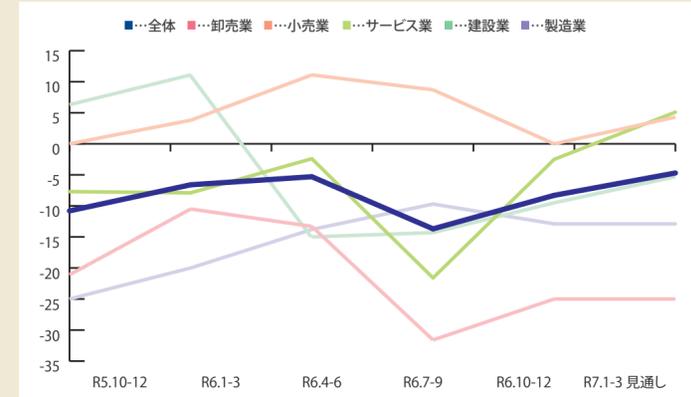
採算（好転-悪化）

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲10.7	▲13.9	▲11.4	▲15.3	▲8.3	▲4.7
卸売業	▲15.8	▲36.8	▲13.3	▲57.9	▲18.8	▲25.0
小売業	▲4.2	11.5	▲14.8	▲4.5	▲4.2	8.7
サービス業	▲2.6	▲7.7	0.0	▲7.9	▲7.5	0.0
建設業	▲12.5	▲27.8	▲40.0	▲19.0	▲4.8	▲10.0
製造業	▲21.2	▲20.0	▲3.4	▲3.2	▲9.7	▲6.5



資金繰り（好転-悪化）

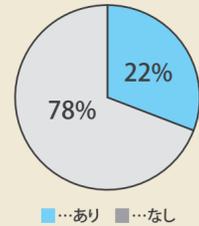
	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲10.8	▲6.6	▲5.3	▲13.7	▲8.3	▲4.7
卸売業	▲21.1	▲10.5	▲13.3	▲31.6	▲25.0	▲25.0
小売業	0.0	3.8	11.1	8.7	0.0	4.3
サービス業	▲7.7	▲7.9	▲2.4	▲21.6	▲2.5	5.1
建設業	6.3	11.1	▲15.0	▲14.3	▲9.5	▲5.3
製造業	▲25.0	▲20.0	▲13.8	▲9.7	▲12.9	▲12.9



設備投資の有無

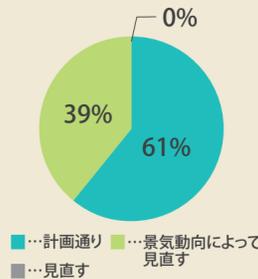
①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	3	2	4	6	13	28
なし	12	22	36	14	18	102



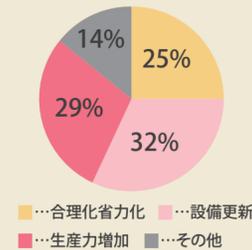
②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	1	1	1	5	9	17
景気動向によって見直す	2	1	3	1	4	11
見直す	0	0	0	0	0	0



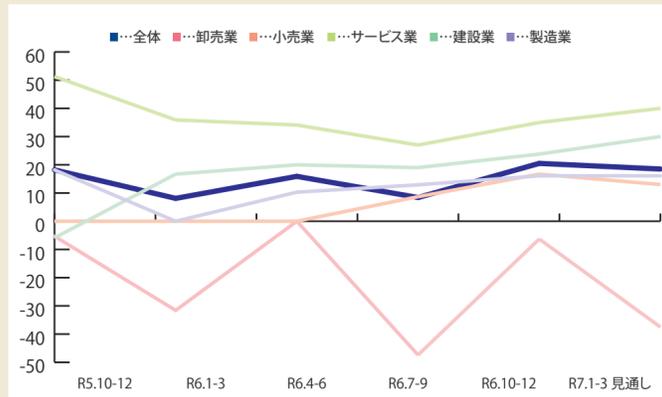
③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	1	1	1	3	7
設備更新	2	0	1	1	5	9
生産力増加	0	1	0	3	4	8
その他	0	0	2	1	1	4



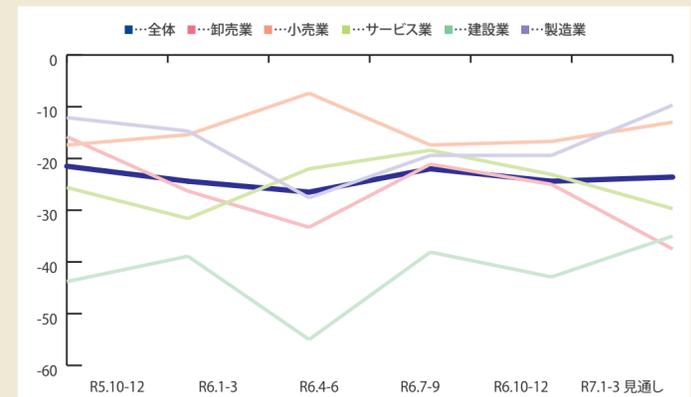
採算の水準（黒字-赤字）

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	18.2	8.1	15.9	8.4	20.5	18.5
卸売業	▲5.3	▲31.6	0.0	▲47.4	▲6.3	▲37.5
小売業	0.0	0.0	0.0	8.7	16.7	13.0
サービス業	51.3	35.9	34.1	27.0	35.0	40.0
建設業	▲5.9	16.7	20.0	19.0	23.8	30.0
製造業	18.2	0.0	10.3	12.9	16.1	16.1



従業員（過剰-不足）

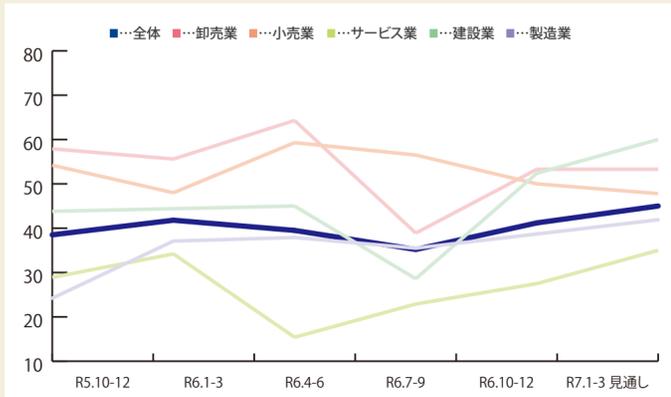
	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲21.5	▲24.4	▲26.5	▲22.0	▲24.4	▲23.6
卸売業	▲15.8	▲26.3	▲33.3	▲21.1	▲25.0	▲37.5
小売業	▲17.4	▲15.4	▲7.4	▲17.4	▲16.7	▲13.0
サービス業	▲25.6	▲31.6	▲22.0	▲18.4	▲23.1	▲29.7
建設業	▲43.8	▲38.9	▲55.0	▲38.1	▲42.9	▲35.0
製造業	▲12.1	▲14.7	▲27.6	▲19.4	▲19.4	▲9.7



調査項目別 DI の推移②

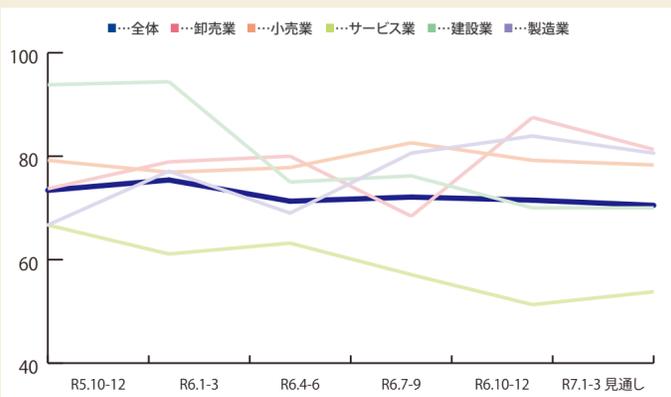
販売価格(上昇-下落)

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	38.5	41.8	39.5	35.2	41.2	45.0
卸売業	57.9	55.6	64.3	38.9	53.3	53.3
小売業	54.2	48.0	59.3	56.5	50.0	47.8
サービス業	28.9	34.2	15.4	22.9	27.5	35.0
建設業	43.8	44.4	45.0	28.6	52.4	60.0
製造業	24.2	37.1	37.9	35.5	38.7	41.9



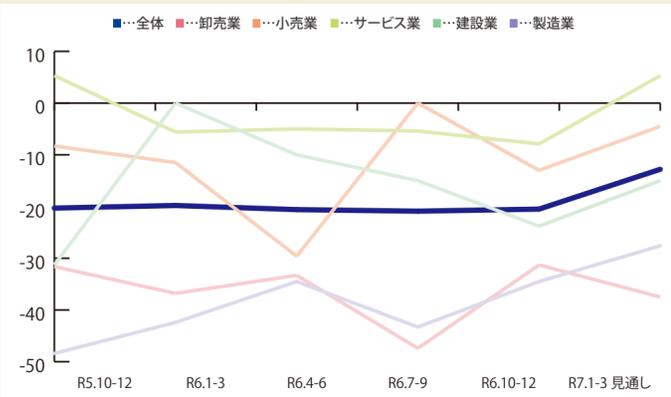
仕入価格(上昇-下落)

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	73.4	75.4	71.3	72.1	71.5	70.5
卸売業	73.7	78.9	80.0	68.4	87.5	81.3
小売業	79.2	76.9	77.8	82.6	79.2	78.3
サービス業	66.7	61.1	63.2	57.1	51.3	53.8
建設業	93.8	94.4	75.0	76.2	70	70.0
製造業	66.7	77.1	69.0	80.6	83.9	80.6



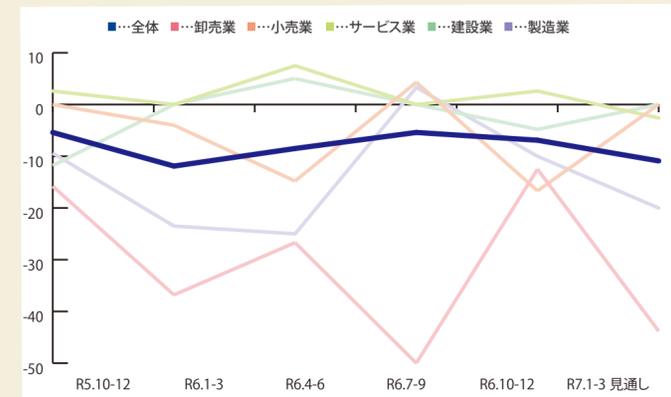
業界動向(好転-悪化)

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲20.3	▲19.8	▲20.6	▲20.9	▲20.5	▲12.8
卸売業	▲31.6	▲36.8	▲33.3	▲47.4	▲31.3	▲37.5
小売業	▲8.3	▲11.5	▲29.6	0.0	▲13.0	▲4.5
サービス業	5.3	▲5.6	▲5.0	▲5.4	▲7.9	5.3
建設業	▲31.3	0.0	▲10.0	▲15.0	▲23.8	▲15.0
製造業	▲48.4	▲42.4	▲34.5	▲43.3	▲34.5	▲27.6



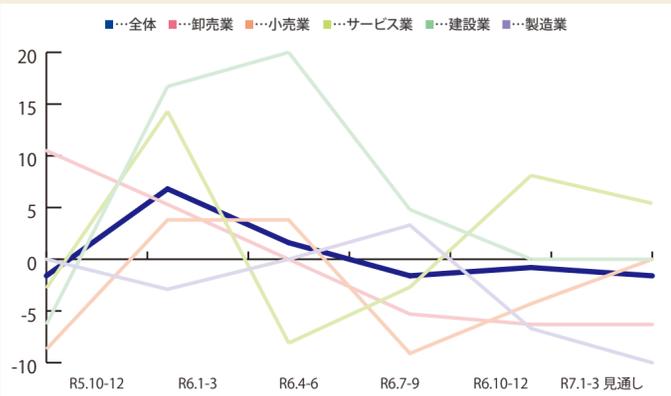
取引問合せ(活発-低調)

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲5.4	▲11.9	▲8.5	▲5.4	▲6.9	▲10.9
卸売業	▲15.8	▲36.8	▲26.7	▲50.0	▲12.5	▲43.8
小売業	0.0	▲4.0	▲14.8	4.3	▲16.7	0.0
サービス業	2.6	0.0	7.5	0.0	2.6	▲2.6
建設業	▲11.8	0.0	5.0	0.0	▲4.8	0.0
製造業	▲9.4	▲23.5	▲25.0	3.3	▲10.0	▲20.0



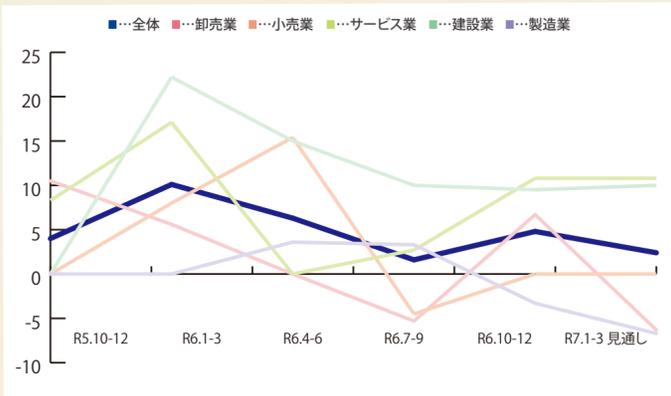
長期資金借入難度(容易-困難)

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	▲1.6	6.8	1.6	▲1.6	▲0.8	▲1.6
卸売業	10.5	5.3	0.0	▲5.3	▲6.3	▲6.3
小売業	▲8.7	3.8	3.8	▲9.1	▲4.3	0.0
サービス業	▲2.8	14.3	▲8.1	▲2.7	8.1	5.4
建設業	▲6.3	16.7	20.0	4.8	0.0	0.0
製造業	0.0	▲2.9	0.0	3.3	▲6.7	▲10.0



短期資金借入難度(容易-困難)

	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3 見通し
全体	4.0	10.1	6.3	1.6	4.8	2.4
卸売業	10.5	5.6	0.0	▲5.3	6.7	▲6.3
小売業	0.0	8.0	15.4	▲4.5	0.0	0.0
サービス業	8.3	17.1	0.0	2.7	10.8	10.8
建設業	0.0	22.2	15.0	10.0	9.5	10.0
製造業	0.0	0.0	3.6	3.3	▲3.3	▲6.7



その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資が一部のお客様でありました。 	<ul style="list-style-type: none"> 物価上昇による賃上げ、仕入先からのデータ確保に伴う有償化UPなどにより利益を圧迫し、人財確保に資金をまわせない。 長浜の工業団地誘致の失敗の挽回をしっかりと行ってほしい。 かなりのお客様で仕事量の減少となっています。
	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税の受注は好調でした。 広がって、従業員とお客様が増えた。 ネット販売が活況、業務用・卸なども回復傾向。 ネットからの問い合わせ改善。 問い合わせ等はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に12月に入ってからの来客が少なくなっている。 原材料のカカオが高すぎる。 物価上昇による買い控え。 仕入価格上昇、運賃値上による影響大。 前期ではpaypay割引やしが割があつてそれなりに売れた。 人材が慢性的に不足、店頭販売が物価上昇と嗜好品などの買い控えで苦戦。 燃料代が上がっているので大変です。 原材料価格や光熱費の上昇による利益率の低下。 地元はちょっと低下。 びん容器のコスト代が上昇しびん入り飲料の値上げが続いており苦慮しています。 物価高騰による買い控え。 仕入において部材等の価格が上昇、ガソリン代も上昇している。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 新しい挑戦をする予定です。 値上げにより。 社会活動が活発化し、問合せは少しずつ増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ウイスキー市場の縮小。 問合せは増加ですが、物価高などの影響により、契約に結び付かないこともある。人件費その他、経費がかかるので金額の落としどころが難しい。 原油高騰により、紙・インク資材等が上がった。
	<ul style="list-style-type: none"> 物価高の状況ではあるが、反対に販売価格に転嫁する理解を得られる機会にもなったと感じている。その結果、適切な利潤を確保し、事業活動を行うことができた。 運輸や交通、自動車関係からの設備投資の依頼が増えた。 販売価格転嫁はやや進む。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材採用については、他の企業との採用競争が激しくなっていることもあり、良い人材の獲得が困難になっている状況もあり、採用コストも併せて上昇している。 物件が大型化して資金繰りが厳しくなった。 人件費の増加が利益を圧迫する。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 2025年は万博がある為、花火大会は減少する。 人賃金上昇の率が大きく、業績に大きな影響を及ぼす。 仕入する度に15%~50%値上げされていて困り果てている。仕入先への不信感が拭えない。 自動車半導体事業低迷。 業界全体として取引が低調。新規受注が入りにくい中、原料費、人件費、光熱費等諸々のコストが上昇。 和装の受注が激減したこと(従来の事業)。 長浜安定所管内の有効求職者数はコロナの影響を受けた2020年2219人をピークに減少を続けていて、最新データでは2000人を割り込み。正社員・パートともに特別好条件を提示しないと集まらない。 日本人の賃金が諸外国に比べ見劣りしている為、外国人材の雇用が難しくなってきた。また、活発なインバウンド需要によりサービス業の賃金が上がっている為、製造業で働いている特定技能者の転職も今後増えてくる恐れがある。若手の日本人の採用も非常に厳しいものがある。 今年になっても原材料があがっている為予定より利益が下がりそうである。 	<ul style="list-style-type: none"> 初期より労務費の価格転嫁交渉を進めて、一定の回答を頂けたことが増益に繋がった。 お客様からの受注が増加し、新製品なども旺盛になってきた。 付加価値の高い商品が増えたため、商品一点あたりの利益率は改善した。 和装以外の受注が増えてきたこと(新規開拓分野事業)。 業界全体としてはあまりよくない傾向が続いているが、高精度・高難易度の仕事に関しては競争が少ないので受注が確保できている。また、新規の案件では大手より直接の受注が増えており、これにより収益性が向上している。 前年度よりのコラボ作品の企画が発売にいたる。
	<ul style="list-style-type: none"> 建設業 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 建設業 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業
	<ul style="list-style-type: none"> 建設業 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業
製造業	<ul style="list-style-type: none"> 製造業 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業
	<ul style="list-style-type: none"> 製造業 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業